

Performance Grades Exams

Drum Kit Syllabus

Valid for exams from 3 June 2024

パフォーマンスグレード ドラムキット 受検要項 (参考抄訳)

2024 年 6 月 3 日より有効

2024 年 4 月 25 日発行

2024 ドラムキット パフォーマンスグレード検定 受検要項

目次

目次

1. はじめに	4
ABRSM について	4
資格認定に関する詳細	4
パフォーマンスグレード検定について	5
資格認定規定	6
資格認定規定（英国以外のヨーロッパ）	6
資格認定規定（それ以外の国）	6
2. パフォーマンスグレード検定	7
シラバス	7
検定規定集	7
不正受検と不正運営	7
受検資格	7
受検申込み	8
受検へのアクセス（特別な配慮の必要な受検者）	8
多様性	8
検定の配点	8
検定の実際	9
3. ドラムキットパフォーマンスグレード検定シラバス 2024	10
はじめに	10
ドラムキットパフォーマンスグレード：課題内容	10
楽器	10
パフォーマンス（演奏）全体の評価	11
演奏曲の選択	11
検定の準備	13
ドラムキット課題曲リスト	14

4. 評価と採点及び違反行為	15
評価の目標	15
評価の配点	15
評価の区分	15
包括的評価について	15
評価	15
違反行為	16
採点基準	16
パフォーマンス(演奏)全体の評価	19
5. 検定の後に	21
結果	21
アピールとフィードバック	21
6. その他の検定	22
音楽理論	22

はじめに

ABRSM について

ABRSM は英国王立音楽検定協会(The Associated Board of the Royal Schools of Music)であり、国際的な音楽教育慈善事業です。私たちがやっている全ての中心には、音楽が人々の人生を豊かにするという信念があります。受け継いだ伝統に基づき、全世界の生徒や教師たちに対面実技及びオンライン検定、楽譜、音源、アプリ、講義などを提供しています。我々の検定は明確な目標と信頼できる一貫した評価、そして今後の学習のためのガイドを受検者たちに与えています。

私たちは、英国王立音楽大学からの協力のもと、様々な音楽的な成果を得て来た長い歴史を持っています。単純な検定機関としての役割を超え、全世界の学習者を最初の一音から支援し、音楽スキルを培い成長させていくための手助けをする先生たちの力添えとなっています。

慈善団体として、私たちは得た全ての利益を音楽教育の取り組みへの寄付や世界中の学習者や教師の支援に投じています。私たちは音楽をその様々な面において支持しており、社会における音楽教育の位置とその未来を守るために出来ることに尽力しています。

その中の一つが高品質で高い評価を得ている検定を提供することです。ここでは厳格で一貫性のある基準が設置され、各々次のステップへの明確な目標となっています。この検定は4つの英国王立音楽大学から協力を賜り、音楽の達成感を得る為にさまざまな工夫と試行錯誤を経て、いまや世界中で価値が認められ、信頼されています。

1889 年から、全世界のパートナーたち、先生たちやその他の方々と共に、皆様が「音楽の旅」を始める、又は続けられるように音楽の未来を育んで来ましたが、これからも同様に励んでいく所存でございます。

ABRSM とは？

ABRSM (Associated Board of the Royal Schools of Music) はイングランドとウェールズにおいて登録されている団体であり、事務局はロンドンにあります。詳しくは公式サイトをご覧ください。

www.abrsm.org

資格認定に関する詳細

資格範囲

この資格認定に関する詳細には、指導者、受検者、保護者そして団体が以下のセクション3に属する実技検定試験を準備する際に役立つ資格規定の関連情報が掲載されています。

- ・ ABRSM 音楽実技におけるエントリーレベル資格(イニシャルグレード)(エントリー3)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル1資格(グレード1, 2及び3)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル2資格(グレード4と5)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル3資格(グレード6, 7及び8)

また、検定の過程、学習の成果、採点基準などの詳細が掲載されています。検定の事務事項などを含める詳細は、ABRSM 検定の規定概要(www.abrsm.org/examregulations)にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。

要項の有効期限

この要項（シラバス）は 2024 年 4 月 25 日から、新しいシラバス発行の告知があるまで有効です。特別な事情がある場合にはシラバスに変更を加えることがありますが、その場合はウェブサイトにて前もってお知らせ致します。

パフォーマンスグレード検定について

資格認定の目的

パフォーマンスグレード検定試験は学習者が楽器の技術的なコントロール、レパートリーの解釈、伝達の仕方、表現などの音楽を演奏する際に必要な技能を披露できるように作られています。各グレードは段階的でそれぞれに新しい課題が用意されており、学習者が意欲を持って演奏スキルを発展させ磨いていけるよう構成されています。

検定を通して、受検者はこの先の学びの過程において支えになる受検したグレードの習熟度や批評、助言等が書かれた正式な講評を受け取ります。パフォーマンスグレード検定試験は学習者が全プログラムを演奏する能力、一定以上の長さのプログラムを通して音楽的な意図を伝達するスキルについて評価され認められる機会を与えます。

受検資格

ドラムキットパフォーマンスグレード検定の受検は包括的な演奏スキルを身に付けようとする全ての学習者のために提供されています。受検に年齢の制限はありませんが、グレード 6 から 8 を受検するには受検資格条件を満たす必要があり、詳細は英文 8 ページに載っています。

この実技検定では異なる年齢、経歴、音楽への興味や関心に沿って幅広い課題曲が選択出来るよう工夫されています。音楽プログラムの構成に自由度を与えるため、受検者が自由曲(適切な難易度のもの)を選んで含めることが出来るようになっています。

また私どもは、すべての受検者が公正な評価を受けられるよう、特別な支援が必要な受検者のための受検会場の手配や調整などを行っています。ドラムキットパフォーマンスグレードには受検者が検定員の指示に反応して初めて見る楽譜を読んで演奏する項目は含まれておりません。この検定は、受検者が可能な時、可能な場所で受検することが出来ます。

構成

各パフォーマンスグレード検定試験は音楽の演奏に必要な基礎知識と理解を包括的に評価するように構成されています。全グレードにおいてこれらのクリエイティブな能力は楽器の技術的なコントロール、レパートリーの解釈、伝達の仕方、演奏プログラムの継続性などによって示されます。これらのスキルは総合的に、受検者を次のグレードの受検、進学、就職、及び他の芸術活動に繋げていくことが出来るのです。

受検者はレパートリーリストから三つの課題曲、自由曲1曲の全4曲で構成されたプログラムを演奏することを求められます。各曲はそれぞれ同じ配点となり、これに演奏全体の総評が加えられます。

学習の道すじ

ABRSM のドラムキットパフォーマンスグレード検定はイニシャルグレードからグレード8まであります。それぞれのグレードは段階的に要求難易度が上がっていきます。この要項のセクション3におけるシラバスにて、各楽器で受検できるグレードが表示されています(英文参照)。下から順にすべてのグレードを一つずつ受検していく必要はありますが、グレード6、7、又は8を受検する場合、事前に取得しなければならない資格の条件があります(以下参照)。

このドラムキットパフォーマンスグレードは、早い段階からテクニックと演奏者の特徴を出来るだけ演奏に反映し伝えることを理解する重要性を学習者に教え込みます。

資格規定

英国における UCAS ポイントの規定

英文6～7ページの表は、グレード取得の際の資格規定です。(訳注：合格証に記載され、英国系学校への進学の際、加算される。) 詳細は、以下を参照願います。 www.abrsm.org/regulation

英国以外のヨーロッパにおける UCAS ポイントの規定

以下は、英国と英国以外のヨーロッパのポイントの対比表です。

その他の国の UCAS ポイントの規定

各国のポイントについては以下を参照願います。 www.abrsm.org/regulation

2. ドラムキット パフォーマンスグレード検定

要項(シラバス)

受検の準備において、関連シラバス及びガイドを必ず事前にお読みください。ドラムキット検定に関する更なる詳細は次のサイトをご参照ください。 www.abrsm.org/drumkit

課題曲有効期間

ドラムキット課題曲リストは2024年4月25日から、新しいシラバス発行の告知があるまで有効です。

シラバスの変更

すべての変更—マイナーな変更点を含む変更告知—は、その都度下記の公式サイトに掲載されます。
www.abrsm.org/syllabuscorrections

次回のシラバス

更新がある場合、事前にウェブサイトにてお知らせします(www.abrsm.org/syllabusupdates)。

検定規定集

検定の準備をする際の、様々な規定をしっかりと理解することは、重要です。この規定集は、英国公式サイトからダウンロードできます。 www.abrsm.org/examregulations

不正受検と不正運営

私たちは音楽力の達成を目指しています。そして、この検定は何千人という人々の音楽学習や指導に役立っているのです。特に高等教育への進学の場合はこれが顕著です。したがって、この資格の価値や公正性は、受検者の技術と知識を測る指標として大変重要なものとなっております。不正行為は、決してあってはならないものであり、重大な事柄なのです。

●**不正受検**とは検定評価、結果や、証書発行過程での妥協的行為を伴う場合を指します。資格授与団体としての名誉や評判を傷つけるような行為もこれに含まれます。

●**不正運営**とは運営上の手続きが著しく規定に反するもので、特にこれが検定結果の公正性を損なう場合を指します。

受検者、受検申込み者は当該シラバス及び、検定規定集、をもとに決められた手続きに従って、受検を行うものとします。不正受検が行われた場合は罰則があります。詳細は英国公式サイトにてご参照ください。 www.abrsm.org/policies

受検資格

ドラムキットパフォーマンスグレード検定は8段階に分かれています。受検における年齢制限はなく、グレード1から5まではどのグレードからでも受検できます。グレード6、7、および8の受検者は検定の申し込み締め切り日までに以下の検定に合格していなければなりません。

- ・ ABRSM 音楽理論 グレード 5 以上
- ・ 同プラクティカル・ミュージシャンシップ グレード 5 以上
- ・ 同ソロのジャズ楽器 グレード 5（訳註：日本では行われておりません）

代替条件を含む詳細については www.abrem.org/prerequisite を参照のこと。

受検申込

検定日程、会場、受検料、申込方法については下記のサイトをご覧ください。

www.abrsm.org/exambooking

受検へのアクセス（特別な配慮を必要とされる方）

ABRSM は、視覚障がい、学習障がい、その他通常の受検が困難なすべての受検者が、この検定を受検できるように、ガイドラインを設け努めてまいります。詳細は次のページにてご確認ください。

www.abrsm.org/specificneeds

このガイドライン以外の事例については、ケースバイケースで対応いたします。

パフォーマンスグレードには補助的なテスト項目が含まれておらず、受検者は検定員の質問に答えたり初めて見る楽譜を読んで演奏する必要がありません。従って、演奏自体に追加時間を設けることは出来ません。ただし、演奏者の必要状況によっては演奏中に休憩を取るなどのオプションを提供しております。

詳しくは accesscoordinator@abrsm.ac.uk 又は www.abrsm.org/specificneeds にご相談ください。

日本で受検される場合、日本事務局にまずお問い合わせください。 info@kakehashi-foundation.jp

特別な配慮

受検者が突然の病気や事故、悪阻、或いは検定直前の不慮の不都合な状況に陥った場合には、特別の配慮がなされます。これは、検定員による配点や評価が変わるということではありません。詳しくは以下を参照のこと。 www.abrsm.org/policies

多様性

ABRSMは音楽界においてさらに多様性、平等性、そして包容力を推進していくことに全力を尽くす所存であり、私たちの組織内においてもこれを成し遂げるため努めております。私たちの多様性を担当する部署及びその最新情報については英国公式サイトページをご参照ください。

www.abrsm.org/diversity-statement

検定の配点

ドラムキットパフォーマンスグレード検定は4曲の演奏とパフォーマンス全体の評価の5つの要素で構成されています。各々の配点については英文23ページを参照のこと。

検定の実際

ドラムキットパフォーマンスグレードは、現在オンライン検定として提供されており、受検者の演奏を動画で撮影し、評価のためABRSMに提出する形になっています。受検者/申込者は検定を行うのに適切な会場と装備を探して確保する必要があります。(譜面台、撮影機器等)

演奏曲は全てワンテイクで演奏・撮影される必要があります、その間停止してはなりません。受検者は演奏を始める前に選択した自由曲の楽譜の冒頭を画面に映し、口頭で自己紹介と演奏曲目の紹介を行います。検定員は演奏者が曲を弾き始める時点から評価を始め、演奏が制限時間を超過する場合途中で聞くのを中断する可能性があります。

受検者が18歳未満の場合、撮影課程は18歳以上の成人責任者による監督が必要となります。この場合、成人責任者は申込者、教師、または保護者がその役割を担うことができます。

検定の撮影と提出に関する詳細な案内はウェブサイトにて確認出来ます。

www.abrsm.org/performancegrades (和訳案内は日本事務局サイトにてご確認ください。)

3. ドラムキットパフォーマンスグレード検定シラバス 2024

はじめに

2024年からABRSMに導入されたドラムキットパフォーマンスグレードはドラムキットの学習者たちが様々なスタイルとジャンルを通して自身の演奏スキルに集中して披露できるように設計されています。この検定は学習者が自身の強みと興味に合わせて演奏し、自身の成果をグレード6から8ではUCASポイント(英国)の取得に繋がるような評価検定を通して公式に認められるように設計されました。ドラムキットパフォーマンスグレードは、補助的なテストの評価を取り除き演奏パフォーマンスにのみ集中した、接しやすい検定試験となっています。その代わり、一番早い段階から選ばれた適切なレパートリーを継続したパフォーマンスの中で表現し伝えて行くように求められます。

音楽家たちは曲を探究し演奏するために楽器の演奏法を学びます。それゆえに、この検定の焦点は曲の演奏とそれらの組み合わせ方によって説得力のある継続的なパフォーマンスを作り上げることにあります。パフォーマンスグレードでは、受検者は各グレードで4曲ずつ演奏することを求められます。

ドラムキットパフォーマンスグレードの課題曲レパートリーは3つのリストに分けられており、受検者がバランスの取れた様々なジャンルを演奏できる機会を得ると同時に多様なスキルを披露できるようになっています。ロック、メタル、ポップからヒップホップとジャズまで、受検者は各スタイルを披露することで様々なテクニックを学ぶことが出来ます。

パフォーマンスグレードは演奏のみに焦点を当てているため、レパートリーの選択は非常に重要であり、曲の対照、演奏順序、それぞれの曲が持つ雰囲気や特徴の違い等を十分に考慮する必要があります。そうすることによって受検者はただ個々の曲を演奏するだけではない、合理的で説得力のある演奏を届ける能力を証明することが出来ます。この部分は、パフォーマンス全体の評価の基準が適用されて評価されます。(英文24ページ参照)

ドラムキットパフォーマンスグレード：課題内容

ここでは講師指導者と受検者が ABRSM ドラムキットパフォーマンスグレード検定を受ける際に考慮すべき重要事項の概要を説明します。検定の事務事項などを含める詳細は ABRSM 検定の規定概要にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。(www.abrsm.org/performancegrades)

楽器

全ての曲は標準的な5点セットのドラムキットで演奏できるものとなります。受検者が希望するならばキットを追加することも出来ますが、必須ではなく、有利になることはありません。適切な場合にのみ、グレード6-8においてダブルベースドラムペダル(ツインペダル)の使用が可能です。

全グレードでアコースティックと電子ドラムどちらも使用が可能です。電子キットを使用する場合、ドラムとシンバルの音がしっかり識別可能なもので、記譜されている音楽的な効果を出せるものを選択してください。検定員は楽器の特徴に関係なく聞こえた音のみに対し採点基準(音程、音質、音楽的なアウトラインなど)を適用して評価します。

パフォーマンス(演奏)全体の評価

演奏スキルはパフォーマンスグレードの核心となるものであり、個々の曲を準備するだけにとどまりません。学習者の演奏者としての力を発揮できるプログラムを構成し、しっかりとした音楽的な意図とその疎通に重点を置いて伝達することは、音楽的な成長において最も中心的なものです。これによって持久力を育て、曲から曲への転換を含む、一つのプログラムを通して演奏するための技術的なコントロールをしっかり根付かせます。曲の雰囲気や特徴を伝える方法を研究し、様々なタイプのレパートリーにおける各スタイルをしっかり理解し、色んな曲を説得力のある魅力的なひとつのプログラムとして組み立てることは、学習者の音楽に対する知識と理解をさらに広げることになるでしょう。

パフォーマンス(演奏)全体の評価がどのように評価されるのかについての更なる詳細は、この要項のセクション4をご確認ください。

演奏曲の選択

演奏曲数：受検者は四つの演奏曲を途中で途切れることなくひとつの継続的なパフォーマンス(演奏)として披露します。3つの課題曲リスト(A、B、とC)から、それぞれ最低でも1曲ずつを選びます。4番目の曲は自由曲として課題曲リストからひとつ選ぶか、または課題曲リスト以外から受検者が選びます。演奏曲はどのような順序で演奏しても構いません。最終的に演奏曲を決定する前に、プログラム構成における要求をこの「演奏曲の選択」セクションでご確認ください。

自由曲：自由曲の選択において、次のようなオプション及び規定が適用されます：

- 曲の難易度は受検グレードの課題曲リストのものと大幅同等又はそれ以上のものである必要があります(ABRSM から事前承認は行われません)
- 自由曲はこの「演奏曲の選択」にある、最小演奏時間を含む規定を満たすものであれば、同グレード用に指定された課題曲リストからも選択出来ます。四曲を全て課題曲リストから選ぶことによって評価が有利になることはありません。
- 自由曲は、受検者自身の自作曲や編曲を使うことも出来ます。(「自作曲」欄参照)
- 自由曲は、必ずドラム譜を含む標準的な記譜法を用いて書かれた楽譜が存在する曲である必要があります、記譜された通りに演奏する必要があります。
- 演奏曲は、無伴奏で、又はバックギットラックを用いて演奏します。グレード検定課題曲から選択した自由曲の場合、必ず提供されているバックギットラックを使用します。

- 自由曲は以下に定められた各グレードの最低時間より短いものであってはなりません。(プログラム全体の演奏時間制限を超過する場合を除く；「プログラム時間」を参照)

	グレード								
	イニシャル	1	2	3	4	5	6	7	8
最低所要時間 (分：秒)	00:20	00:25	00:30	00:35	00:45	01:00	01:30	02:00	02:30

各グレードの所要時間は持久力(スタミナ)を含む必要なスキルの幅と深度を証明するために必要とされる最低時間となります。

「演奏曲の選択」項目で説明されている他のプログラム構成条件も満たす必要があります。

自由曲の難易度などに疑問がある場合、ABRSM は楽譜を手に入れるのが困難な曲に関して申込者に楽譜の写本の提示を求めることがあります。これによって、検定の結果発表が遅れる可能性があります。

自作曲：ABRSM では受検者の自作曲、又は自ら編曲したものを自由曲として演奏することを歓迎しております。私たちが曲の完成度や構成に関して判断、評価をすることはなく、演奏のみが評価の対象となります。ただし、他の自由曲と同じように、受検グレードの課題曲と大幅同等なレベルの技術的な難易度を有する必要があります。

プログラム(演奏)時間：曲から曲への転換を含む演奏全体の時間は、以下の表にある各グレードに定められた最大演奏時間を超えてはなりません。プログラムの演奏時間は、最初の音が演奏された瞬間から最後の音までとなります。動画が演奏最大時間を超える場合、その時点で検定員が聞くのを中断する可能性があります。

	グレード								
	イニシャル	1	2	3	4	5	6	7	8
演奏最大時間 (分)	5	6	7	8	10	12	15	20	25

バックギョトラツク：課題曲リスト A と B の曲は必ず提供されているバックギョトラツクを使用する必要があります。リスト C の曲は必ず無伴奏ソロで演奏します。自由曲は伴奏付、または無伴奏で演奏します(「自由曲」項目参照)。

バックギョトラツクは、クリック有または無しのものを使用します。

無伴奏曲の演奏では、クリックトラツクまたはメトロノームの使用を禁じます。受検者は無伴奏曲の演奏時にはイヤホン及びヘッドホンを必ず取り外します。

詳細は www.abrsm.org/performance-grades/guidance をご参照ください。

繰り返し(リピート)：ABRSM から出版された曲は、全ての繰り返しを行います。

課題曲リスト：課題曲レパートリーは、受検者の年代、背景、興味に合うように、できるだけ広い範囲から選ばれております。曲の選択は、各々の受検者に適切であるものを選ぶべきであり、場合によっては先生や保護者と相談する必要があります。指導者や保護者は曲の選択については、あらかじめ良く相談し、又受検者が曲を検索する場合は注意を払うこと。詳しくは www.nspcc.org.uk/online-safety をご参照ください。

検定の準備

プログラムフォーム・演奏前の順序：受検者は動画アップロード時にプログラムの情報をオンラインで提供しなければなりません。必要な曲情報は、演奏する順に記入します。

受検者は演奏を始める前に、自由曲の冒頭部分を画面に提示し、自己紹介と演奏曲の紹介を口頭で行う必要があります。グレード 6、7、8 を受ける受検者はこれに加えて写真付身分証明証をカメラに映す必要があります。これは、これらの資格が上のグレード、ディプロマ及び大学の入学申込における前提取得条件となる可能性があるためです。

受検者が望む場合、楽譜をカメラに提示することや(身分証は不可)、口頭紹介などは評価対象には含まれませんので、成人責任者が代行することも出来ます。演奏の評価は音楽の最初の一音が響いた瞬間から始まります。

以上に関する更なる情報は、音楽パフォーマンスグレードのご案内 www.abrsm.org/performance-grades にてご確認ください。

楽譜の解釈：受検者は、自ら楽譜を音楽的でスタイルに合った解釈をするように奨励されています。ABRSM によって出版された曲の場合、受検者が自らの装飾を追加して、自身のスタイルに対する理解や創造力を証明できるように次のようなセクションが提供されています。

FILL	スタイルに合ったフィルを即興で演奏する
CONT. SIM	少しスタイルに合ったヴァリエーションを加えつつ同じようなグルーブを続ける
DEVELOP	グルーブを音楽的な状況に合わせて発展させる 例)ドラムの音色に変化を与えたり、リズムを難しくしてみる
SOLO	ドラムパートが音楽的な主役となるスタイルに合った即興パッセージを演奏する

検定員の評価は受検者の判断が各曲の音楽的な結果やパフォーマンス全体においてどのように影響しているかによって決まります。ドラムキットパフォーマンスグレードの評価基準は、英文 24 ページにて確認出来ます。

暗譜：暗譜での演奏は任意です。演奏終了時に検定員が楽譜を参照する場合がありますので暗譜にての

受検者も必ず楽譜をご用意ください。また、暗譜の有無が評点に影響することはありません。

著作権：英国の法律の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合にコピーの使用が認められます。（詳しくは www.mpaonline.org.uk をご覧ください。）その他の場合においてはコピーをとる前に申請をし、検定において許可証の提示が必要です。

すべての受検者と申請者は著作権法の範囲内で行動することを求められます。不適切な行為などが判明した場合、検定結果の発表を保留する場合があります。

課題曲リスト：英文 15 ページを参照

4. 評価と採点及び違反行為

評価の目的

次の表は実技検定の際、受検者に必要な知識や技術のレベルを表しています。これらは検定員が評価する際の基準と連動しています。詳しい評価基準は英文 25-26 ページをご覧ください。

（訳註：英文 20-22 ページの基準一覧は英国圏でのレベル分けとなっている為、和訳は省略）

評価の配点

弦楽器対面実技検定評価の点数は、下記のように、要素毎に振り分けられています。

検定の区分	各セクションの満点	合計点に対する配分
課題曲 1	30	20%
課題曲 2	30	20%
課題曲 3	30	20%
課題曲 4	30	20%
パフォーマンス全体	30	20%
合計	150	100%

評点の区分

以下は検定結果の区分け一覧です。各項目において、必ずしも 100 点（66%）を獲得しなければならないということではありません。

評点の区分	評点の範囲
Distinction（秀）	130－150
Merit（優）	120－129
Pass（合格）	100－119
Below Pass（不合格）	50－99

包括的評価について

包括的評価とは、受検者が主要な課題において必要な技術、知識など効果的に使い、示しているかを判断する評価の形式のひとつです。実技検定では異なるスキル、知識、理解力－理論、表記、楽器のコントロール、聴く力、創造的な解釈力等をまとめて、検定の個々の科目に応用することが出来るのです。

評価

検定員の評価は、当日の検定内容のみに基づいて行われます。以前のパフォーマンスは評価の対象とはなりません。

ひとつの動画はどんな資格に対しても一度のみ提出が許可されており、同じ、又は違う資格検定に対して再利用することは出来ません。一度提出された動画が再度評価のためにアップロードされた場合、これは認め

られず、二度目の検定は失格となります。

違反行為

受検者/受検予定者は、ドラムキットパフォーマンスグレード検定要項に掲載された検定内容を読み、遵守することが重要です。これらに違反した場合は、ABRSMの裁量にて警告、減点或いは失格となる場合があります。以下は違反行為の例です：

- 当該グレード水準を満たさない自由曲を演奏する場合
- 無伴奏曲の演奏にクリックトラックを使用した場合
- 自由曲が短すぎる、又は長すぎる場合
- プログラム構成において曲数が4曲を下回る場合、または当該グレードのABRSM課題曲リストから選んだ曲が3曲未満である場合
- 課題曲リストから選んだものの、シラバスの指示に従わなかった場合
- 許容されていない休憩を取った場合
- ワンテイクで撮影されていない、または何らかの編集が施された動画を提出した場合

以上の行為のみとは限りません。

これらに対する対応としては、

- 書面での警告：主に細かい違反（例：同じリストから2曲選択）に対して行われます。それ以降の検定において違反行為が続く場合には、より重い罰則が科せられます。
- 各要素（訳注：課題曲1など）の減点：要項に掲載されていない曲の演奏のようなより重要な違反に対しては、各項目つき3点からその項目の満点までの範囲において減点が行われることがあります。
- 基本的に検定内容が遵守されていない場合（例：当該グレードからの選曲が皆無である等）には失格もあり得ます。

検定員は違反行為を ABRSM に報告し、その裁量と対応がなされます。その為、結果通知が遅れる場合があります。以前同じ違反行為が罰則なしで受け入れられたとしてもそれは先例にはならず、これによるアペールは受け付けません。

採点基準 (Marking Criteria)

英文 25-26 ページの評価リストは検定員が実際使用するもので、各曲がそれぞれ 30 点満点として最初の評価基準に基づいて採点されます。全体の演奏が終わった後、パフォーマンス全体の評価が 30 点満点として二つ目の評価基準に基づいて採点されます。パフォーマンス全体の評価の基準に対する解釈については 27-28 ページでご確認ください。

検定員は評価基準に示されている全体的な音楽的資質や能力を考慮して、各要素の合格点から加点、又は減点する形で結果を出します。

各演奏曲に対する評価基準					
グレード イニシャル-8	パターン	タイム（拍子テンポ・リズム）	音色	音楽的な形付け	演奏
優(Distinction) 27-30	● 非常に正確なパターン ● フィルにおいてスタイルに合った、独創的な音を選択している*	● リズムの特徴と拍の感覚が上手く表されている ● 説得力のあるグルーヴ ● フィルが流暢で柔軟*	● 良く響く音色 ● 自信のある音色を使い分け方	● 音楽的な形付けの豊かで自然な表現	● 自信のある演奏 ● 音楽に没頭している ● 生き生きとした特徴とスタイルの伝達 ● 自然な流れ、発展、そしてソロ演奏
良(Merit) 24-26	● ほぼ正確なパターン ● フィルにおいてコントロールされた音を選択している*	● 全体的に良いリズム感と拍の感覚 ● 安定感のある、効果的なパルス(拍)とグルーヴ ● フィルのリズム配置がコントロールされている	● コントロールされた、一貫した音色 ● 納得できる音色の使い分け方	● 音楽的な形付けの明快な表現	● 肯定的 ● 音楽的な確信がある ● 音楽的特徴とスタイルの伝達 ● 効果的な流れ、発展、そしてソロ演奏
合格(Pass) 20-23	● 概ね正しいパターン ● フィルに輪郭がある*	● 概ね正しいリズムと拍の感覚 ● 適切なパルス(拍) ● フィルのリズム配置が概ね安定している	● 概ね安定した音色 ● 十分な音色の使い分け方	● ある程度の音楽的形付けの表現と細部への配慮	● 概ね安定的、ミスからの速い立ち直り ● ある程度の音楽的表現 ● 流れ、発展、そしてソロ演奏への試み
不合格 (Below Pass) 17-19	● パターンに頻繁なミスがある ● フィルに輪郭がない*	● 不正確なリズムと拍の感覚 ● 持続性のないパルス(拍) ● フィルにおける不適切なリズム配置	● 不均等で不安定な音色 ● 不十分な音色の使い分け方	● 音楽的な形付けの不十分な表現	● 不安定、ミスからの不十分な立ち直り ● 不十分な音楽的表現 ● 流れ、発展、ソロが効果的でない、または不在
13-16	● パターンが大幅に不正確 ● フィルに一貫性がない*	● リズムコントロールと拍の感覚が不在 ● パルス(拍)が成立していない	● 音色コントロールが殆ど出来ていない	● 音楽的な形付けが殆ど表現されていない	● 流れが途切れる ● 音楽的な表現がまったくない
10-12	● 非常に不正確なパターン ● フィルに一貫性がまったくないか、フィルがない	● コントロールされていないリズムと拍 ● 一貫性のないパルス(拍)	● 音色コントロールがまったく出来ていない	● 音楽的な形付けが不在	● 短いセクション以上続けて演奏が出来ない
0	演奏なし	演奏なし	演奏なし	演奏なし	演奏なし

グレード イニシャル-8	パフォーマンス全体の評価		
	コミュニケーション	解釈	伝達
優 (Distinction) 27-30	- 一貫して良く響き、音楽に没頭し、演奏に確信を持って専念している - 効果的な曲の組み合わせと演奏ペースの維持、一貫して秀でた演奏状況への認識とコントロール能力	- 一貫して効果的なスタイルの特徴付け; プログラムの要求する解釈水準を見事に満たしている - 効果的な組み合わせ方やバランスのとり方を伴う、一貫して秀でたテクスチャとアンサンブルに対する認識とコントロール能力	- 一貫して自信を持ってコントロールが出来ていて、プログラムの要求する技術的な水準を見事に満たしている - 一貫して効果的な楽器の扱い方が出来て、演奏状況に完全に対応している
良(Merit) 24-26	- 大体において良く響き、音楽に集中し、演奏に対し肯定的に取り組んでいる - 殆どにおいて効果的な曲の組み合わせと演奏ペースの維持、全般的に良い演奏状況への認識とコントロール能力	- 大体において効果的なスタイルの表現; 概ねプログラムの要求する解釈水準をしっかりと満たしている - 概ね良い組み合わせ方やバランスのとり方を伴う、大体において優れたテクスチャとアンサンブルに対する認識とコントロール能力	- 効果的なコントロールが出来ていて、大部分でプログラムの要求する技術的な水準をしっかりと満たしている - 大部分で効果的な楽器の扱い方が出来て、殆どの演奏状況にしっかりと対応している
合格(Pass) 20-23	- 演奏の全体的な感覚を維持するのに十分な響きと音楽的な表現 - 曲の組み合わせと演奏ペースの維持において十分な演奏状況への認識とコントロール能力	- プログラムの要求する解釈水準を満たせるスタイルの表現 - 適切な組み合わせ方やバランスのとり方を伴う、十分なテクスチャとアンサンブルに対する認識とコントロール能力	- 全般的にコントロールが出来ていて、全体を通してプログラムの要求する技術的な水準を満たしている - 演奏状況に十分対応できる楽器の扱い方が出来ている
不合格 (Below Pass) 15-19	- 演奏を維持するのに不十分な響きと音楽的な表現 - 曲の組み合わせと演奏ペースの維持において不十分な演奏状況への認識とコントロール能力	- プログラムの要求する解釈水準を満たさないスタイルの表現 - 不適切な組み合わせ方やバランスのとり方、不十分なテクスチャとアンサンブルに対する認識、又はコントロール能力	- プログラムの要求する技術的な水準を満たすコントロールを維持できない - 演奏状況に対応できる楽器の扱い方が出来ていない
10-14	演奏感覚が概ね欠如している	スタイルの表現、テクスチャとアンサンブルのコントロール能力が欠如している	技術的なコントロール及び楽器の扱い方が不安定

パフォーマンス全体の評価（Marking Criteria）

合格基準として、受検者は選択した曲のプログラム全体を通して一貫した演奏をこなすことを求められます。演奏者の曲への気持ち、音楽的な描写、音楽的要素の解釈、楽器の演奏に必要なテクニックなどが十分に伝わりやすいレパートリーを選ぶ必要があります。また、バックギングトラックと演奏する際に必要なアンサンブル能力、安心できる演奏を聴衆に届けるために必要なスタミナなどにも注意しなければなりません。

コミュニケーション(C)、解釈(I)、そして伝達(D)の部分において、受検者は音楽的、技術的な能力を幅広く披露する必要があります。そうすることによって、自身の継続的なプログラムの演奏における全般的なセンスを証明することになるのです。

イニシャルグレードからグレード3

- | | |
|---|--|
| C | 受検者は音楽的なコミュニケーション、目的、個人的な関心を初級レパートリーによるプログラム全体を通して感じ取れるように披露します。初級レベルの演奏状況に対する認識を4曲の演奏中、そして演奏と演奏の間に表します。短いプログラムを通して、受検者は演奏に対する関心と音楽的な環境を作れることを証明します。 |
| I | 受検者は各演奏曲に合った特徴と雰囲気音楽的な詳細とスタイルの初歩的な理解を持って披露します。簡単なテクスチャにおける音楽的な役割に対する理解を示し、類似点と相違点を指摘することが出来ます。分かりやすい音楽的な要素を調和しバランスを取ることが出来、適切な場所でアンサンブルに対する認識も表します。 |
| D | 受検者は自身の楽器に対する十分なコントロールが出来、初歩的なレパートリーの技術的な課題を自信を持ってクリアできなければなりません。短いプログラムの最初の音から最後の音まで、一貫して技術的な安定を維持するための集中力とスタミナを有しています。 |

グレード4、5

- | | |
|---|---|
| C | 受検者は音楽的なコミュニケーション、目的、個人的な関心を中級レパートリーによるプログラム全体を通して感じ取れるように披露します。演奏状況に対し発展している認識を4曲の演奏中、そして演奏と演奏の間に表します。適切な長さのプログラムを通して、受検者は演奏に対する関心と音楽的な環境を作れることを証明します。 |
| I | 受検者は各演奏曲に合った特徴と雰囲気音楽的な詳細とスタイルの発展している理解を持って披露します。テクスチャ、音色、アーティキュレーション、雰囲気の違いを指摘することが出来、様々な音楽的な要素を適切に調和しバランスを取り、適切な場所でアンサンブルに対する認識も示すことが出来ます。 |
| D | 受検者は自身の楽器に対する十分なコントロールが出来、中級レパートリーの技術的な課題を自信を持ってクリアできなければなりません。適切な長さのプログラムの最初の音から最後の音まで、一貫して技術的な安定を維持するための集中力とスタミナを有しています。 |

グレード 6 から 8

- C 受検者は音楽的なコミュニケーション、目的、個人的な関心を上級レパートリーによるプログラム全体を通して感じ取れるように披露します。演奏状況に対する成熟した認識を 4 曲の演奏中、そして演奏と演奏の間に表します。長いプログラムを通して、受検者は演奏に対する関心と音楽的な環境を作れることを証明します。
-
- I 受検者は各演奏曲に合った特徴と雰囲気を音楽的な詳細とスタイルのる効果的な音楽的詳細と成熟した理解を持って披露します。複雑なテクスチャにおける音楽的な役割をに対する認識を示し、複雑な音楽的要素を適切に調和しバランスを取り、伴奏が伴う場合適切な場所でアンサンブルに対する認識も示すことが出来ます。
-
- D 受検者は自身の楽器に対する十分なコントロールが出来、上級レパートリーの技術的な課題を自信を持ってクリアできなければなりません。長いプログラムの最初の音から最後の音まで、一貫して技術的な安定を維持するための集中力とスタミナを有しています。
-

5. 検定の後に

結果

全ての受検者は検定の結果を受け取ります、又合格者へは、合格証が送付されます。ABRSMはできるだけ所定のスケジュールに沿って、結果を送付するようにしておりますが、遅れる場合もあります。検定員は結果報告に関してのいかなる行為も行いません、即ち評点用紙（合格者には合格証）は、検定後本部より発行されます。又、結果はエントリーフォームに記載されている受検申込みに送付され、受検者に責任を持って伝えられます。

アピールとフィードバック

アピール

受検者が予期せぬ結果を受け取った場合は、Result Reviewを要求することが出来ます。これにより検定員からの評価が再検討され、場合によっては、評点の変更もあり得ます。

フィードバック

結果再検討に加えて、結果以外のフィードバック、例えば検定全般や、マークフォームなどについてのフィードバックも歓迎いたします。これにより継続的な検定の改善を目指しております。

フィードバックの期限など詳細は www.abrsm.org/send-exam-feedback をご覧ください。

6. その他の検定

楽器奏者及び声楽家の為の ABRSM の他の検定としては、プレップテスト、ジャズ、パフォーマンスアセスメント、アンサンブル、及びディプロマがあります。詳細は www.abrsm.org/exams にてご参照ください。

音楽理論

ABRSM 音楽理論検定はグレード 1 から 8 まで受検が可能です。受検者たちは年齢に関係なくどのグレードでも挑戦することが出来、前のグレードを先に取得する必要もありません。詳細は www.abrsm.org/theory よりご覧いただけます。

音楽理論について

演奏家、作曲家、一般聴衆が幅の広い音楽力を身につけるには、音楽語法を理解し、精通することが不可欠です。書かれている記号と、音楽の要素との関係を理解し、それを翻訳し、実際の音としてどの様に表すかを学ぶことによって、その音楽の持つ意味をより深く経験できるのです。

ABRSM の音楽理論検定によって、学習者は：

- ・ 記号、用語など、西洋音楽の記譜法を理解し、
- ・ 音程、調性、スケール、和音など音楽の基本的な要素を理解し、
- ・ 理論の知識を理解し、楽譜の分析へと応用する事ができ、
- ・ 旋律或いは和声を完成させることができるのです。(グレード 6 - 8)

受検者は、各グレードに準じて、音楽記号を自在に使い分けたり、音符の抜粋を完成させたり、音楽の要素に関する設問に答えることによって、能力を評価されます。

グレード 1 - 5 の検定はオンラインで、グレード 6 - 8 は対面形式での受検となります。

グレード 5 の事前取得

長年にわたる ABRSM の水準のひとつとして、グレード 6 以上の実技検定を受けるには、理論検定グレード 5 以上の事前取得が必要となっています。高い水準の音楽を、満足のいくように演奏するためには、その音楽の諸要素の理解が、不可欠だと考えるからです。プラクティカル・ミュージシャンシップ、又はジャズのソロ演奏でのグレード 5 の取得もこの基準を満たすものとします。

ABRSM は自ら有する検定資格を定期的に再評価します。この要項の有効期間中に、上記の検定に変更が為される可能性もあります。最新情報は、イギリス本部のウェブサイトをご参照ください。